KITA ニュース

KITA
Kitakyushu International Techno-cooperative Association
NO.47号
July 2017

目 次

2頁　理事会・評議員会・理事長あいさつ
3頁　H28年度事業報告・H29年度事業計画
4頁　退任あいさつ
5頁　H28年度JICA受入れ研修コース実績
6頁　H28年度後期研修コースダイジェスト版
9頁　海外での活動状況
11頁　国際親善報告・人事異動
12頁　JICA中小企業海外展開支援事業～案件化調査終了

セミナー会場風景

セミナーにおけるデモ風景

～JICA中小企業海外展開支援事業～案件化調査終了～

技術協力部は、コンサルティングへの取り組みとして㈱ジェー・フィルズ殿を支援し、JICAの案件化調査事業を実施してきました。急速に進む経済発展のベトナムは、様々な環境汚染が顕在化しており、㈱ジェー・フィルズ殿が開発された酵素を活用した画期的な排水処理システムを適用すべく調査活動を約1年間行いました。その結果、ハイフォン市から非常に高い評価を得ることが出来ました。

詳細は本文（12頁）を参照下さい。

公益財団法人北九州国際技術協力協会

平成28年度／平成29年度理事会・評議員会開催

1. 平成28年度第2回通常**理事会**・第3回臨時**評議員会**

（1）平成28年度第2回通常**理事会**

①主要議題：平成29年度事業計画並びに収支予算書等の承認

②日　　時：平成29年**3月9日**（木）12:30～13:55

③場　　所：千草ホテル

（2）平成28年度第3回臨時**評議員会**

①主要議題：平成29年度事業計画並びに収支予算書等の承認

②日　　時：平成29年**3月23日**（木）12:30～13:55

③場　　所：西日本工業倶楽部

2. 平成29年度第1回通常**理事会**・定時**評議員会**

（1）平成29年度第1回通常**理事会**

①主要議題：平成28年度事業報告並びに決算報告（監査報告を含む）の承認

②日　　時：平成29年**5月30日**（火）12:30～14:00

③場　　所：千草ホテル

（2）平成29年度定時**評議員会**

①主要議題：平成28年度事業報告並びに決算報告（監査報告を含む）の承認

②日　　時：平成29年**6月15日**（木）17:00～17:50

③場　　所：西日本工業倶楽部

理事長挨拶

― H28年度事業報告・H29年度事業計画に際し ―

北九州国際技術協力協会
理事長　古野　英樹

昨年度後半から世界の情勢が波乱含みになってきました。シリア難民のヨーロッパ流入問題、イギリスのEU離脱問題、中国による南シナ海占有への動きとトランプ大統領のアメリカ第一主義などによる世界秩序への不安醸成、北朝鮮の核兵器開発と軍備威嚇問題、そして一段と範囲を広げながら手段を択ばぬ恐怖を振りまいているISを中心とした国際テロ等、日本にとっても対岸の火事として放置できない状況になってきております。安定化への動きが進んでいた世界秩序に振動が起こり、その波は日本にも及ぼうとしています。日本は東北大震災、熊本地震等の復旧に追われているさなかで国際問題にも注意を怠れないという緊張感を求められています。

このように社会的には落ち着かない気分でありますが、KITAのH28年度の結果は安堵の一息をつけるものとなりました。H26年度、H27年度と2年連続で経常利益赤字に甘んじておりましたが、H28年度はマスタープランに1千万円を投資したにも関わらず黒字を実現することができました。案件のタイミングに恵まれたことも好結果を齎した要因になりましたが、研修事業における新しい発想によるコース提案力が実を結んだこと、技術協力事業における公的機関向けのコンサルティングが本格化してきたことなどがこの成果をもたらしたものと思います。また関係者全員の日々の地道な費用削減努力、業務効率化努力もこの結果に寄与しました。

平成28年度では経理・財務に影響する事項が例年になく多い1年でした。主要な事項は下記の通りです。

1. KITAマスタープランの本格的な活動。これは順調な立ち上がりとなりました。
2. 有価証券の時価評価への移行を実行。メリットは確保できました。
3. 北九州メンテナンス技術研究会（KME）のKITA管理下への復帰（昨年10月）。技術協力部の戦力として活動開始しました。

しかし、H29年度は研修事業収益力を左右するコース研修期間が開発途上国の諸事情の変化等により短縮傾向にあること、技術協力事業の大きな戦力となってきつつあるコンサルティング事業はそもそも長期の取り組みを要するためにタイミングが年間収益を大きく左右すること、などからH29年度はこれらの要素がKITAにとっては不利に働いてしまう1年になると予想しています。

このような不利な状況からの打開を図らなければなりません。まず、研修事業においては研修ブランドアップによる提案力の更なる強化であり、有償研修への挑戦であります。

また、技術協力事業においては、技術協力ブランドアップによるコンサルティング事業の一層の充実、北九州市（アジア低炭素化センターを含む）など他団体・機関との連携強化などです。

これらを実現すべくH29年度は下記の3つの事業方針で臨みます。

1. KITAブランド実現に向けた事業力強化・充実
2. 事業運営効率化の一層の推進
3. 公益財団法人運営の確立・・透明性・公正性及び情報公開の徹底

このH29年度の事業方針はKITAマスタープラン本格化による今後のKITA体質強化に極めて重要な課題となるものであります。今後とも皆様方のさらなるご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

Ⅰ. KITA中長期指針

1．KITA財産づくり
2．「KITAらしさ」と「北九州立地の強み」追求

Ⅱ. H28年度事業報告

下記4つの事業方針を推進した。特にマスタープラン効果が予想以上に早い段階で成果をみせ、1千万円のマスタープラン投資費用があったにも関わらず黒字を達成した。尚、下記課題についてはほぼ順調に夫々の課題を達成することができた。

1.KITAブランド実現に向けた事業力強化・充実

⑴研修ブランド・・現地ニーズ把握からアウトカムフォローまでの確実な遂行

⑵技術協力ブランド・・北九州中小企業のグローバル展開

2.KITAマスタープラン作成とその遂行

⑴KITAマスタープラン（平成27年度一部先行実施～10年計画）遂行手続完了

⑵KITAマスタープラン推進開始・・平成28年度から本格開始

3.事業運営効率化の一層の推進

⑴組織・業務分担の明確化と組織間連携の強化

⑵システムインフラの有効活用促進と機能充実

4.公益財団法人運営の確立・透明性・公正性及び情報公開の徹底

⑴保護情報の厳守と情報公開の徹底

⑵内閣府、北九州市の外部監査対応関連ドキュメント整備

●経常収支決算

収益：221.7百万円　支出：219.5百万円

（予算　収益：245.6百万円　支出：245.6百万円）

JICA研修事業規模縮小を主因として収益減少となった。しかし、予算ではゼロに近い値としていた経常利益が実績では2.1百万円の経常利益を計上できた。

Ⅲ. 平成29年度事業計画

マスタープランはH28年度から本格化し、その2年目となるH29年度は成果を期待したい。しかし、まだまだマスタープランは投資が先行する時期であり、マスタープラン投資の早期の費用回収を期するものの、計画としては赤字予算とした。一方で、マスタープランの前提としていた基本財産取崩しは行わずに推進できる計画とし、下記課題を推進することとした。

1.KITAブランド実現に向けた事業力強化・充実

⑴研修ブランド・・現地ニーズ把握からアウトカムフォローまでの確実な遂行

①研修のさらなる充実

②新たな研修コース受注に向けた仕組みの構築

⑵技術協力ブランド・・公益目的事業継続・北九州中小企業のグローバル展開と収益事業の開拓

①公益目的事業の継続推進

②北九州中小企業のグローバル展開支援と収益事業開発の検討開始

③アジア低炭素化センターとの連携

④メンテナンス研修事業の強化・・北九州メンテナンス技術研究会（KME）の活用

2.事業運営効率化の一層の推進

⑴組織・業務分担の明確化と組織間連携の強化・管理業務効率化とコスト抑制

⑵システムインフラの有効活用促進と機能充実

3.公益財団法人運営の確立・・透明性・公正性及び情報公開の徹底

⑴保護情報の厳守と情報公開の徹底

⑵内閣府、北九州市の外部監査対応関連ドキュメント整備

⑶公益財団法人としての日常マナーの確立

●経常収支予算

収益：215.7百万円　支出：226.9百万円

（含むMP 15百万円）

利益：－11.2百万円

（従来範囲 ＋3.7百万円、MP －15百万円）

KITAを去るに当たり

KITA参与　上野　正勝

思い出深い出来事

2006年7月にコースリーダー（CL）に採用され、2011年4月から2017年3月までの6年間、副理事長・研修部長として皆様と一緒に仕事をさせていただきました。無事定年を迎えるにあたって皆様に心から感謝し、お礼を申し上げます。

今、舟を降り、舟が通過してきた川の上流方向に目をやりますと川の流れの方向や流速が大きく変化しているところ（渦）がよく見えてきます。少し大げさですが、「沈没もせずよくこの船着き場にたどり着けたなぁ」と、いうのが実感です。渦に目を凝らすと、下記の風景や出来事が浮かんできます。

①古野理事長から「KITAの財産は何か」との問いかけ
②公益財団法人としての必須条件、「公益性」「透明性」の具現化
③明文化されたJICA－KITA－コースリーダーの関係。その中でKITA（研修部）が果たすべき役割の明確化と実施体制の構築
④研修課題の共有化や新たな研修課題の提案のため、JICAとの交流パイプの強化

これらの渦を乗り越える過程で生まれたのが、「KITA研修ブランド」でした。ご周知のとおり、このブランド観は“ソリューションの提供”です。つまり、“課題解決の鍵”の提供です。

研修対象国（発展途上国）の人々は、より良い明日を目指して多くの課題にチャレンジしています。それには“経験に裏付けされた知見”が必要です。幸い、我々にはこの知見があります。この知見を提供することこそ研修の重要な役割と考え、研修ブランドの核に“ソリューションの提供”を設定しました。

幸いに、この“ソリューションの提供”は、JICAの研修方針である「共創」と基本理念では完全に一致しています。JICAの方針が大幅に変わらない限り、KITAブランドの「核」であり続けると思います。有益なソリューションンが提供できるためには、先ず「課題が何か」を正確に知ることが不可欠です。そのために、我々は独自に考案した課題解決シート（IAS）を用い、効果的な活用方法をCLの皆さんと一緒になって改良し続けて今の姿に落ち着きました。しかし、課題の内容は千差万別。様々な課題を捕獲するためには、網の姿・形は絶えず変化していかねばなりません。この創意工夫が、KITAの財産を形成していくものと信じています。

研修成果のフォローアップでベトナムを訪問（2015年1月）。右二人は訪問先（中小企業支援センター）の幹部の皆さん。

KITAの将来への期待

ご周知のとおり、JICAから発注される研修は、ODAの一環です。研修を担当する皆様は“市民レベルの外交官”と言っても過言ではありません。彼らが入手する情報は、CLが設計されるカリキュラムと情報を提供する人たちの熱意で決まります。特に熱意は重要です。なぜなら、熱意は“感動”に繋がり、“感動”を伴って受け入れられた情報は身に付き、次の行動に繋がるからです。無感動で受け入れられた情報は忘れられ、後の行動には繋がりません。感動があってこそ研修が生き、その成果は日本への信頼につながるので、研修のポイントは“如何に感動を与えられるか”に尽きるのではないでしょうか。

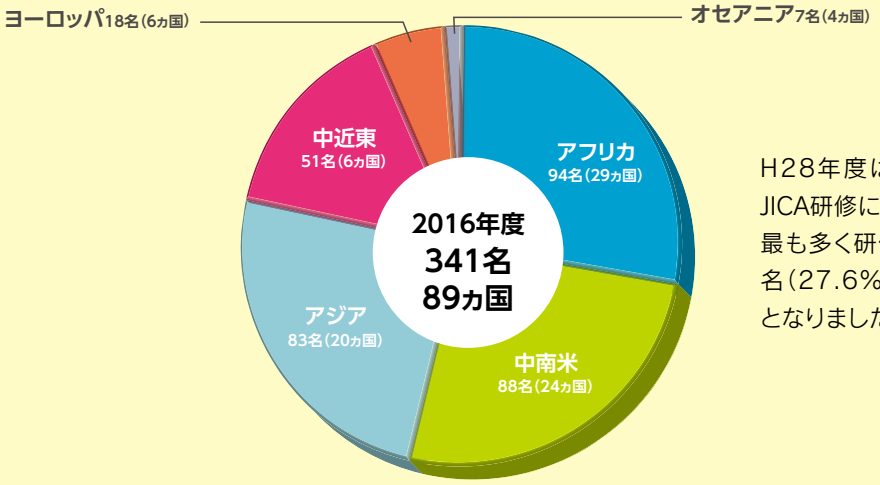
「CLの役割」の重要さを念頭に置き、研修内容の改革・改善に邁進してください。そして“世界に冠たるKITA”を目指してください。KITAは今年の7月で37周年を迎えます。その先には40周年、50周年、100周年記念等が待っています。KITAの益々の発展を祈念して退任のご挨拶といたします。

平成28年度／JICA受入れ研修コース実績

【受入れ期間】

分類	No.	コース名	研修員人数	コースリーダー(AL or SCL)	平成28年(2016) 4	5	6	7	8	9	10	11	12	平成29年(2017) 1	2	3	4
I 環境管理	1	産業環境対策	9	枌　康則													
	2	廃棄物管理技術(A)	8	指輪　勤													
	3	廃棄物管理技術(B)	8	原口清史													
	4	コンポスト事業運営(A)	7	指輪　勤													
	5	コンポスト事業運営(B)	10	城戸浩三													
	6	イラク産業環境対策における能力開発	12	枌　康則													
II 水資源	1	下水道システム維持管理(B)	7	末田　元													
	2	水環境行政	12	貴戸　東													
	3	ベトナム下水道経営研修1	10	緒方信一													
III 生産技術・地場産業	1	中南米・中小企業・地場産業活性化(A)	12	富田正昭													
	2	中南米・中小企業・地場産業活性化(B)	11	河崎克彦													
	3	アフリカ:輸出振興マーケティング戦略(B)	7	中島康紀													
	4	アフリカ:輸出振興マーケティング戦略(E)	9	中島康紀													
	5	中南米:輸出振興マーケティング戦略(C)	10	井生幸人													
	6	職業訓練の運営・管理と質的強化(C)	9	有竹岩夫													
	7	日本的モノづくり現場のノウハウ	7	大和秀介													
	8	アフリカ:実践的電気・電子技術者育成	7	富田正昭													
	9	アフリカ:起業家育成・中小企業活性化(A)	11	小杉　允													
	10	イラン:中小企業のマーケティング能力開発	12	有竹岩夫													
	11	ウクライナ:石炭発電所のメンテスキルの向上	7	藤井岱輔													
	12	和食ビジネス振興	6	三木義男													
IV 省・新エネルギー	1	イラン:省エネ・再生可能エネルギー	11	寺田雄一													
	2	省エネルギー背策立案(B)	10	川口健二													
	3	再生可能エネルギー導入計画(A)	9	川崎順一													
	4	再生可能エネルギー導入計画(B)	9	植山高次													
	5	民生部門の省エネルギー技術(A)	7	植山高次													
	6	民生部門の省エネルギー技術(B)	10	川口健二													
	7	高効率クリーン火力発電の推進(A)	7	藤井岱輔													
	8	高効率クリーン火力発電の推進(B)	6	藤井岱輔													
	9	青年研修・インド再生可能エネルギー	13	矢頭昭治													
	10	青年研修・アフリカ再生可能エネルギー	15	矢頭昭治													
	11	カザフスタン・産業部門の省エネ推進	8	植山高次													
	12	掘削マネージメント	7	高﨑義則													
V 保健衛生都市開発	1	食品安全行政	13	中原幸治													
	2	持続的な都市開発のための都市経営(A)	8	高﨑義則													
	3	持続的な都市開発のための都市経営(B)	10	川崎順一													
	4	持続的な都市開発のための都市経営(C)	7	井生幸人													

H28年度(2016年度)に参加した研修員数と国数



H28年度は、89ヵ国から341名の研修員がJICA研修に参加しました。
最も多く研修員を派遣した地域は、アフリカ94名(27.6%)で、次は中南米88名、アジア83名となりました。

H28年度後期実施 研修コース ダイジェスト版 ＝ピックアップ＝

H28年度下半期期に実施された受入れ研修コース一覧。（ピックアップ）
※2016年9/1～2017年3/31間にスタートした研修コース

1）研修コース名
廃棄物管理技術（B）
2）受入れ期間
平成28年10月2日～平成28年12月3日
3）コースリーダー
原口　清史

日本での研修はいかがでしたか。日本で学んだ施策や技術は、ほんの一部なのでこれから自国にあった施策や技術を収集、加工し、適用していくことがみなさんの役割です。
そして日本の印象はいかがでしたか。日本文化や日本人の心を少しは理解いただけたでしょうか。

1）研修コース名
食品安全行政
2）受入れ期間
平成28年10月2日～平成28年10月29日
3）コースリーダー
中原　幸治

研修員の皆さんは、行政・研究機関等で貴国の食品の安全確保に大変重要な役割を担った方ばかりでした。食品安全の幅広い観点から構成しているこのコースに熱心に取り組まれました。皆さんの努力に対し心から敬意を表します。
日本で学ばれた知識・情報が少しでも貴国にとって役立ち、改善につながることを願っています。

1）研修コース名
ベトナム：下水道経営研修1
2）受入れ期間
平成28年10月3日～平成28年10月19日
3）コースリーダー
緒方　信一

短い研修期間でしたが、下水道事業の経営に必須の講義と可能な限り水処理の基礎や現場視察を取り込みました。今回研修で学んだ事を核として、更に研鑽されることで今後ベトナム下水道事業の進展の中で、リーダーとしての役割を果たされ、ご活躍されることをお祈りいたします。

1）研修コース名
和食ビジネス振興
2）受入れ期間
平成28年11月6日～平成28年12月1日
3）コースリーダー
三木　義男

「幸せが来るのをじっと待っているか」、それとも「自ら汗を流してチャレンジして、幸福を一歩、引き寄せて、手中におさめるのか」は、その人の人生観、そのものである!!

［幸福を引き寄せる3条件］
①好奇心、②プラス思考、③人脈

1）研修コース名
持続的な都市開発のための都市経営（B）
2）受入れ期間
平成28年11月6日～平成28年11月19日
3）コースリーダー
川崎　順一

2週間の短期間ではありましたが、中身の濃い研修で皆さんのいろいろな質問に講師の先生方が全て応えていただいたことに感謝したいと思います。
皆さんの今回の研修成果が帰国後の業務に確実に生かされ、持続可能な都市への新しい一歩になることをお祈りします。皆さんと有意義な時間を共有できたことに感謝します。

1）研修コース名
日本的モノづくり現場のノウハウ
2）受入れ期間
平成28年10月16日～平成28年12月1日
3）コースリーダー
大和　俊介

短期間ではありましたが、皆様の研修がスムーズに進むよう努力してまいりましたが、如何でしたでしょうか？皆様の何でも学ぼうとする真剣な姿勢に深く感銘を受けました。本コースで学んだことを生かして貴国の製造業のレベルアップに努力されることを期待しております。

1）研修コース名
下水道システム維持管理
2）受入れ期間
平成29年1月10日～平成29年3月4日
3）コースリーダー
末田　元

講義、見学ではいつも質問がたくさん出され活発な質疑応答がなされました。また、一生懸命メモを取って知識の吸収に励んでいる積極的な授業態度に感動しました。皆さんの協力に感謝いたします。
このコースで得た知識を今後さらに深めていくことが皆さん方の今後の課題です。自国の下水道普及に活躍してください。
See you!　Dewa Mata.

1）研修コース名
民生部門の省エネルギー技術（B）
2）受入れ期間
平成29年1月15日～平成29年3月3日
3）コースリーダー
川口　健二

あっという間に過ぎた7週間でしたが、冬の日本は如何でしたか。ハードな研修だったかもしれませんが、大きなトラブルもなく全員が無事に研修を終えることが出来たのは私にとって最大の喜びです。この研修で学んだ多くの情報や日本での生活経験が、今後の皆さんの国のエネルギー効率の改善や仕事の質の向上に役立つことを期待しています。

1）研修コース名
産業環境対策
2）受入れ期間
平成29年1月24日～平成29年4月22日
3）コースリーダー
枌　康則

研修終了おめでとうございます。研修員全員が元気で研修を終えられたことを嬉しく思います。日本での研修が皆さんの業務に出来るだけ多く活かされることを期待しています。課題解決のために目標を明確に定め、それを具体的な計画のもとで確実に実行してください。これからも健康に留意して頑張って下さい。

1）研修コース名
イラン：中小企業のマーケティング゛能力強化
2）受入れ期間
平成29年2月14日～平成29年3月12日
3）コースリーダー
有竹　岩夫

知っていることとやれることは全く違う。
知識は実行を通じて知恵に変わる。
必ずやってみること。適切な計画が完成すれば半分以上出来上がったのに同じ。計画に基づいて全員の協力を得て前進することが肝要！

1）研修コース名
再生可能エネルギー導入計画（B）
2）受入れ期間
平成29年3月12日～平成29年4月22日
3）コースリーダー
植山　高次

皆様の熱心な受講態度により充実した研修でした。研修後の試験結果もこれまでで最高の得点でした。皆様に役立つ情報を提供し、かつ楽しい研修をと、コース設計に苦労しましたが、如何だったでしょうか？皆さんがJICA研修を生かして貴国のPV発電普及に重要な役割を果たして頂くと、本当に嬉しい事です。

発展著しいベトナム南部地域でのビジネス交流を支援

北九州市・ベトナム南部地域経済交流事業

技術協力部 部長専門員　宮田　利勝

北九州市とKITAは、2009年のハイフォン市との友好協力協定（2014年からは姉妹都市協定）の締結以降、北九州市企業とベトナム企業とのビジネス交流の支援を積極的に進めております。本年6月には発展著しいベトナム南部地域（ホーチミン市及び周辺）でのビジネス交流の支援を行ったところです。

今回は、事前現地企業調査（1月）とその報告会（2月）などの準備のもと、金属分野（精密鋳造、計量機器）、工業系商社、ゴム分野など5社について同行支援を実施。ホーチミン市やバリアブンタウ省などの企業10社との商談、JETROホーチミン事務所での最新の経済情報ヒヤリング、そして展示会視察（Vietnam Industrial & Manufacturing Fair 2017）などを行うことができました。

また参加企業の方々には、ホーチミン市や周辺のインフラ整備（地下鉄・高速道路など）や沿線での高層マンション建設の様子などを見聞いただき、現地経済の活況と力強さを実感していただきました。

今回のビジネス交流では各社まだ窓口ができたに過ぎません。今後は各社の積極的で継続的なコンタクトが肝要です。KITAとしては引き続き北九州市と共に支援を続けて参ります。

今後北九州市では、10月にはハイフォン市で、翌年1月には再度のホーチミン市や周辺都市でのビジネス交流を計画中です。ベトナムに興味をお持ちの企業各位のご参加をお待ちしております。

ホーチミン市やバリアブンタウ省などで商談が活発に行われた

建設ラッシュが続くホーチミン市内

フィリピン共和国ダバオ市における廃棄物管理向上支援プロジェクト

技術協力部 部長専門員　近藤　保光

フィリピンのミンダナオ島ダバオ市において、都市廃棄物の減量、リサイクルを目的としたJICA草の根プロジェクトが本年3月から開始されました。事業期間は2020年3月までを予定しています。ダバオ市は、最終処分場がひっ迫していることから廃棄物発電施設（WTE）導入の話があり、北九州市は、3年前からWTEとはどういうものか、ダイオキシン対策はどのようにしているかなど様々な角度から情報提供を行ってきました。また、フィリピン中央政府にも環境省とともにWTEの導入ガイドライン策定支援も行ってきました。このような経緯を経て、北九州市は、昨年11月、ダバオ市と「戦略的環境パートナーシップ協定」を結びました。

一方、WTEの導入はごみの減量、リサイクルが前提であり、廃棄物管理全般の支援協力が欠かせないとの立場から、JICA草の根プロジェクトを案件化しました。この事業では、指定袋制度によるごみの分別、減量施策等の経験を活かした技術移転を行う予定です。4月から既に2回ほど渡航して、まず、家庭、事業者のごみ減量、リサイクルの実態把握に努めています。

このような調査結果に基づいて、今後どのような分野、考え方、体制でプロジェクト目的を達成できるのか、両市の信頼関係を基礎として、早期に実施方針を決定する予定です。

キックオフミーティング

家庭のごみ分別状況

マレーシア・フレーザーヒルでの食品系廃棄物の分別収集・堆肥化事業

JICA草の根技術協力事業で食品系廃棄物排出ゼロを目指す

技術協力部 部長専門員　竹内　眞介

マレーシア・パハン州のフレーザーヒルは、同国の首都であるクアラルンプールから北へ車で2時間ほどのところの山岳地帯にあり、標高がおよそ1,600メートルと高いので、年間を通して涼しいこと（ホテルには冷房設備無し）、自然がそのまま残っていることなどで、避暑や自然観察を目的とした観光客が年間約12万人訪れています。

一方、本プロジェクトの開始前は、一日に約1トンのごみが出ていて、週2回これを収集し、約2時間かけて山裾にある最終処分場へ運んでいました。マレーシア国としては、ごみの分別・リサイクル活動を通じ、「廃棄物ゼロ」のエコツーリズム振興を目指しており、JICA草の根技術協力事業でアジア低炭素化センター、KITA、楽しい株式会社（若松区向洋町）による食品系廃棄物（以下生ごみ）の分別収集・堆肥化事業を行うことになりました。

最初に、生ごみを出すホテルやレストランなどを訪問し、生ごみの分別排出への協力をお願いしました（2015年8月）。次に分別した生ごみを腐敗する前に堆肥化する必要があるため、生ごみだけの収集頻度を週2回から週3回に増やした分別収集体制を構築しました。

次に堆肥化設備は、楽しい株式会社が日本国内で販売しているものを輸出し（2015年8月）、マレーシア政府が建設するコンポストセンターに設置して生ごみの堆肥化を開始しました（2015年12月）。現在もこのシステムは順調に稼働しており、1カ月当たりの生ごみの収集量は約2トンで、この生ゴミから約100kgの堆肥が作られ花壇やゴルフ場などで利用されています。

分別された生ごみ

分別収集用三輪車

堆肥化設備・試運転見学会

出来上った完熟堆肥

ベトナム国ハイフォン市で取り組む都市廃棄物の堆肥化支援

技術協力部 部長専門員　髙倉　弘二

ハイフォン市は北九州市と協働して2015年5月に策定した「ハイフォン市グリーン成長推進計画」にもとづき、廃棄物の適正処理と資源循環社会の構築を目指しています。現状の廃棄物は増加の一途をたどり、埋め立て処分場は満杯であり、廃棄物の資源化・減量化は喫緊の課題です。これに対し、ハイフォン市では他国の援助を受け、日量200tの混合廃棄物を処理する大規模堆肥化施設を総工費21億円で整備しましたが、全く機能せず取り壊されようとしていました。私はこの施設を改善し再生すべく、現地で堆肥化技術の指導と原料となる有機性廃棄物の分別収集及び市場形成までの全体システム作りの支援を行っています。

現地での作業は、まずは堆肥化技術の基礎理論を取得するために、講義と実技指導を実施しました。現地スタッフは曲がりなりにも長らく堆肥化作業に従事していたので、飲み込みも早く、パイロット試験用種菌13tの製造、パイロット試験へと順調に進み、良質な堆肥製造技術を確実に取得していると判断しています。

技術指導の目的は既存施設のラインをそのまま生かして再生することであり、そのためには提供する技術の適正化だけでなく、現地技術も尊重しつつ協働することで成し遂げました。

今後は堆肥化施設のフォローアップとともに、良質な堆肥製造に必要不可欠な有機性廃棄物の分別収集の仕組みづくり・市場形成へと軸足を移していきます。

順調に堆肥化が進行している

レストラン等の事業者に対し有機性廃棄物の分別を依頼

国際親善報告

「西日本工業倶楽部の夕べを開催しました」

事務局 事務課長　高井　辰彦

平成29年4月14日に、再生可能エネルギー導入計画(B)コースの研修員9名を招いて、「西日本工業倶楽部の夕べ」を開催しました。この親善プログラムは例年秋口と年度末を実施時期としておりましたが、今回初めて4月に入っての開催を試みました。

春らしい暖かく穏やかな天候に恵まれ、また研修員の皆さんも日本滞在が残り1週間という時期にあたり、残り少ない滞在の中日本の春を楽しもうと、全員リラックスした笑顔でバスに乗り込んできました。

到着後、最初は西日本工業倶楽部のガイドの方に洋館を案内いただきました。このコースの研修員は研修旅行で東京と京都に行っておりましたが、この洋館の設計者が東京駅を設計した辰野金吾で、しかも東京駅より早く建築されたと聞き、驚いておりました。約1世紀前に優れた西洋の技術を貪欲に取り入れ、当時の近代建築の粋を集めた造りとしている一方で、庭園は京都同様に借景の技法等を使った純日本風のもので、この時代の日本の文化、価値観を垣間見たと感じたのではないでしょうか。また、この施設を100年に渡り大切に維持していることに、日本らしさを感じていたものと伺えます。

夕食を挟んで日本館へ移動し、裏千家淡交会の伊達先生とお弟子さんに、お茶の席を設けていただきました。丁寧に作法をお教えいただきながらお茶を頂戴しただけでなく、客人をお迎えするために細部に至るまで心を配って茶器やお菓子を準備いただいていることに、茶道の心を感じたものと思います。ただ、畳の上に座るのはやはり苦手なようで、最後に集合写真を取ろうとした時に、皆さん和服姿のお弟子さんの近くの場所を確保したいと思いつつ、なかなか立ち上がれない様子でした。

プログラムの最後にはビンゴゲームを行いました。どなたもビンゴゲームは初めてだったようで、最初は戸惑っていたものの、ビンゴ第一号の研修員が出る頃には、誰もが「次こそは自分が」と盛り上がりました。9名中4名までビンゴになった後、なかなか当たりが出なかったですが、なんと最後に残り5名が一斉にビンゴ!という大変珍しい結末となり、全員大笑いでイベントの終了を迎えることが出来ました。

茶道体験

ビンゴゲーム

KITA人事異動
(2016年12月20日～2017年6月30日)

退　任

副理事長	上野	正勝(2017年3月31日付)
研修コースリーダー	川崎	順一(2017年3月31日付)
研修コースリーダー	小杉	允(2017年3月31日付)
研修コースリーダー	矢頭	昭治(2017年3月31日付)
研修コースリーダー	大和	俊介(2017年3月31日付)
技術協力部 KME事務局	青井	澤海(2017年3月31日付)

新　任

研修コースリーダー	窪田	琢也(2016年12月21日付)
副理事長(研修部長兼務)	寺田	雄一(2017年4月　1日付)
研修コースリーダー	緒方	勲(2017年4月　1日付)
技術協力部長専門員	近藤	保光(2017年4月　1日付)
技術協力部 KME事務局	森	章(2017年4月　1日付)

“㈱ジェー・フィルズ殿の海外展開を支援”

JICA中小企業海外展開支援事業～案件化調査を終了しました

技術協力部長 麻原 伴治、部長専門員 宮田 利勝、部長専門員 石川 精一

技術協力部ではコンサルティングへの取り組みをマスタープランに掲げ、その第1号としてジェー・フィルズ殿を支援し、昨年ほぼ1年に亘ってJICAの案件化調査事業を実施してきました。調査の過程はKITAニュースNO.45、NO.46で報告しているので詳細は省きますが、概ね以下の通りです。

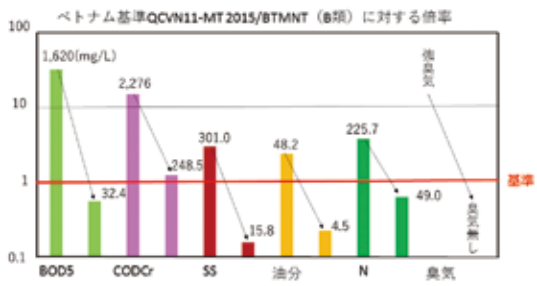
ベトナムは急速に進む経済発展の下で、主要都市部への人口集中や地方都市における産業構造の変化などの影響により、様々な環境汚染が顕在化しています。とりわけ汚水処理施設の整備が不十分なことによる河川や運河の水質汚濁が深刻な中、河川等の水質改善には公共の下水処理施設の建設整備だけでなく、工場や施設など発生源に対する個別排水対策が喫緊の課題となっています。

このような課題を抱えているベトナムに株式会社ジェー・フィルズ（北九州市戸畑区、谷一身代表取締役）殿が開発された、酵素を活用した画期的な排水処理システムを適用すべく調査活動を行ってきました。

①河川汚染の元凶のひとつである市街地に立地する海産物卸売市場でのパイロットプラントによる実排水処理テスト実施

②テスト結果の報告を含めた現地技術セミナーの開催

こうした活動の結果、ハイフォン市からは非常に高い評価を得ることが出来、環境対策担当であるSon副市長から、現在進めている「ハイフォン市グリーン成長推進計画」の具体化に向けて本技術を導入していきたいとの意向が示されました。その足がかりとして実機での実証を協働で実施することで合意しました。今後、普及・実証事業への展開を目指します。



試験結果（水産物加工排水基準B類との比較）

セミナーにおけるデモ風景

この調査事業はいくつもの要因が偶然にもうまく重なり合って実現に至ったもので、その経緯に触れたいと思います。

A）ジェー・フィルズ/谷社長との出会い：北九州市国際ビジネス政策課と共同で実施した市内企業の海外展開調査シートにあった一言がきっかけ。

B）KITAのマスタープラン：技術協力部では、コンサルティングへの取り組みを強化しようとしていた時期でもあり、早速、ジェー・フィルズ/谷社長の元を訪問し排水処理技術をヒアリング、これまでにない非常に優れた技術であることを確認した。

C）ハイフォン市でのJICA草の根技術協力事業：丁度この時期技術協力部では、ハイフォン市地場企業の生産性向上・品質向上に取り組んでいたことから、ハイフォン市関係者に本排水処理技術の適用を打診した。

D）ハイフォン市外務局長の後押し：元外務局職員だった通訳のビンさんの尽力により、外務局長との直接面会が叶い、その場で本技術を活用したハイフォン市の水質改善への取組み要請とそのために全面協力する意向が示された。

セミナー会場風景

このような経緯で、JICA中小企業海外展開支援事業～案件化調査に挑戦し、所期の目的を達成したところです。今後は前述のように「普及・実証事業」に取組み、関係者がお互いにWin-Winとなれるよう頑張っていきたいと考えています。

KITAニュース
No.47（第47号）
2017年7月発行
（1月・7月発行）

発行：公益財団法人北九州国際技術協力協会
編集発行人：事務局長　藤原 直捷

〒805-0062　北九州市八幡東区平野一丁目1番1号　国際村交流センター4階
TEL：093-662-7171　FAX：093-662-7177　E-mail：info@kita.or.jp

●右記Web site（KITAホームページ）には、KITAのご案内、活動、過去のKITAニュースなどを掲載していますのでご覧下さい。

KITA 検索 カチッ!
http://www.kita.or.jp/